

令和2・3年度大島地区研究協力校「郷土教育」

大和村立4小学校（大和小・大柵小・名音小・今里小）公開研究会

主題設定の理由

【今日的課題から】

人口減少率の高さ
高齢化率の高さ
伝統継承意識の希薄化

【子供の実態から】

質問事項	小学校	中学校
大和村が好きですか。	96%	69%
地域行事に参加していますか。	49%	63%
将来大和村で暮らしたいですか。	59%	40%

【大和村教育行政施策から】

「大和村の教育風土を構築した偉大な先人たちの業績や豊かな自然、深い歴史、伝統文化や芸能を正しく学び理解し、郷土への誇りと愛着をもち、郷土の発展に尽くす人材の育成」

研究主題

大和の名を誇りに思う教育

～ 郷土を語れる知識と心の基盤をつくる指導の在り方 ～

研究のねらい

郷土の体験的な理解、大和村スタイルの確立

- 6年間を通して、「ふるさと大和村」の自然・産業・伝統・文化・歴史・人物といった魅力ある郷土素材を学習内容とした授業を展開することで、ふるさと大和村を体験的に理解させるとともに、その学習活動を通して大和村の発展に貢献しようとする態度を育む。
- 郷土教育カリキュラム「大和村スタイル」を確立し、質の高い郷土教育が系統的・継続的に展開できるようにする。

目指す子供像

中学校	○ 郷土と自分との関わり方や自らの生き方を見つめ、よりよい大和村の発展に貢献しようとする子供
高学年	○ 大和村の自然・産業・伝統・文化・歴史・人物等を意欲的に調べ、よさや課題を知るとともに、自分たちのできることを考え行動する子供
中学年	○ 大和村の自然・産業・伝統・文化・歴史・人物等を体験的に理解し、大切にしようとする子供
低学年	○ 大和村の自然・伝統・文化に親しみ、そのよさに気付く子供

学びの段階



研究内容

1 郷土教材の発掘・編集

- 郷土のよさの価値付け
- 課題に対して主体的に働きかけていこうとする態度の育成



2 郷土愛醸成の手立て

- 体験活動から道徳科へ
- 視点を与えた振り返り



3 郷土教育カリキュラム「大和村スタイル」の確立

成果と課題

- 大和村が好き 96%→96%
- 将来大和村で暮らしたい 59%→84%
- 村内全小学校の子供・教職員間の信頼関係の深まり
- 集合学習の経験の積み重ねによる中1ギャップ解消
- ▲ 大和村の独自性に気付かせるための、村外の子供との意見交流
- ▲ ICTを活用した打合せやオンライン授業などの実施

参加された保護者・地域の方・教職員より

- 資料が実体験によるもので、内容に現実味があり、わくわくしました。（保護者）
- 子供たちの様子から、系統的に充実した郷土教育の集合学習を積み重ねてきたことを感じました。（保護者）
- これまでの体験活動がよく分かる設営でした。（保護者）
- 授業を見せていただき、一村民として郷土に誇りと感謝の念をもちました。これからも孫や地域の子供たちに伝承していきます。（地域の方）
- 郷土を大切に作る教材・公開でした。子供が元気で、それぞれが主体的に頑張っている姿がよかったです。（地域の方）
- コロナ禍だからこそだが、新しい取組（保護者や地域の方が参加した公開研究会）として、面白いと感じた。授業研究に参加した保護者の中に「面白い取組だった。」「初めて知ったことがいっぱいあった。」という意見があった。（教職員）
- 集合学習で積み上げてきた体験活動と本日の授業は関連した内容だったので、理解を深める授業が行われていた。（教職員）
- 村内の教職員が1チームになり楽しく充実した2年間の研究となった。今後も郷土を誇りに思う子供を育てたい。（教職員）

公開研究会の様子

72人の保護者や教職員、地域の方に御参加いただきました。



【開会行事（開会のあいさつ）】

【研究発表】



【低学年公開授業】

【中学年公開授業】

【高学年公開授業】



【低学年指導助言】

【中学年指導助言】

【高学年指導助言】



【分科会：研究協議】

【指導講話】

【閉会のあいさつ】